

1. 課題研究の評価

(1) 生徒の自己評価と教師による総合評価の比較

小石川フィロソフィーVの課題研究では、すべての講座で学期ごとに、評価基準表による生徒の自己評価と、教師による「A」「B」「C」を用いて3段階の総合評価を行った。結果を図1にまとめた。

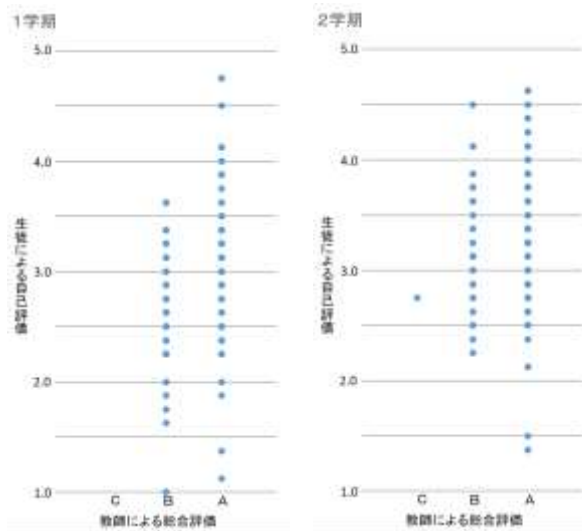


図1 生徒の自己評価と教師の総合評価

1学期から2学期にかけて、生徒による自己評価の上昇が見られる。しかし、教師による総合評価はあまり変化しておらず、互いの評価には、ほとんど相関が見られない。

1学期から2学期における総合成績の推移と、生徒が表記基準表を用いて行った自己評価の推移を表1にまとめた。

表1 生徒の自己評価と教師による評価の推移

		教師による総合評価		
		下がった↓	変わらない→	上がった↑
生徒の自己評価	↓	1.5 %	14.2 %	2.2 %
	→	0 %	8.2 %	1.5 %
	↑	2.2 %	53.0 %	17.2 %

評価基準表を用いた自己評価は上がったにも関わらず、教師による評価が変わらない生徒が 53.0%を占めた。反対に、自己評価が上がったにも関わらず、教師による評価が下がった生徒が 2.2%いた。

(2) 生徒の意欲を高めるための評価のあり方

生徒の課題研究への意欲を高めるためには、生徒が自らを正しく評価して改善できるよう、教師が導く必要がある。このためには、生徒と教師が共通の目標(評価基準)に向かい、生徒が行った改善の努力に対して、教師が正しいフィードバックを行うことが理想である。

第3期 SSH 事業を通じて年に複数回行ってきた評価基準表による自己評価では、一時的に評価が上がったり下がったりするものの、学年を追う毎に向上する様子が捉えられている。これは、評価基準表による自己評価が自己を見つめ直す機会となり、生徒が自己の課題を認識し、改善に努めた成果だと考えられる。

一方で、教師による総合評価と、生徒による自己評価には必ずしも一致が見られない。教師の評価基準と生徒の評価基準を一致させるための、より具体的な取り組みについての検討が求められる。

2. 教員の指導力向上のための取り組み

本校の「小石川フィロソフィー」では、生徒が自由に講座を選択し、各教員の得意分野を活かした多彩な課題研究が行われてきた。

SSH 第3期事業の取り組みを通して、これまでの指導で培われたノウハウを評価基準表として目に見えるようにして生徒と共有することで、生徒の成長が期待できることがわかってきた。また、定期的に開催した小石川フィロソフィー担当者会議においても、各教員の共通理解が高まっていることを感じている。

本校グランドデザインに掲げる育てたい生徒像「自ら志を立て、自分が進む道を切り拓き、新しい文化を創り出す人材」に基づき、課題研究における指導目標を、すべての教員で共有できるよう、様々な校内委員会を通して評価についての情報交換を行い、教員の指導力向上に努めたい。